

ナツジ戦略(仮)の論点について

- エビデンスの体系的な整備・共有
- 介入のデザインについて
- 効果の把握について
- 倫理面の配慮
- 連携
- 研究
- 行政の体制整備
- 不完全なエビデンスに基づく政策立案(汚いデータ、RCTができないとき)
- 国際的な潮流を踏まえたナッジの実践
- その他(BESTの役割)

○エビデンスの体系的な整備・共有

- ナレッジシェア、知見の体系的な蓄積
- エビデンスのデータベース化(自治体ナレッジシェア)
- エビデンスが存在するナッジについて効率的に情報提供
- スラッジ
- 普及段階にあるエビデンスかどうか(社会実装できるか、外的妥当性)

○介入のデザインについて

- オプトインとオプトアウトの違いを踏まえて効果があった介入を人々に届けるか
- 介入を受け取ってもらいたい人、介入を受け取ることで行動が変わりやすい人にどう届けるか
- オプトアウト形式をどのように社会の中に実装するか
- オプトアウトした方が良い人にしっかりとオプトアウトしてもらうためにはどのような働きかけが必要か
- 行動は個人の特性と環境や文脈の関数
- LCAの情報も加える
- 地域毎の行動・文化・制度・仕組み等といった特性を紐解く

○効果の把握について

- 行動変容ステージがどの段階からどの段階に移行したのかを把握
- 平均的な効果と異質性を考慮
- 短期的な効果(1回限り)と長期的な効果(習慣化)
- 損失回避を意図したナッジで受け手が損失を感じたか
- 効果の測定方法について、行動変容が本当に起きているのか
- 行動の側面だけでなく認知面・態度面の反応という点も合わせて計測
- 実際の効果をどう捉えていくかという点についてガイドラインを整備
- RCTの実施
- 相関関係と因果関係の違いの理解
- 単なる前後比較(効果を把握しないよりは良くても因果関係の理解には不十分)

○倫理面の配慮

- 倫理面の考慮、チェックリストの活用
- 公共政策の受け手には我々がライフスタイルに何らかの影響を与えてしまうということを念頭に法令以上に倫理的な観点を持つことが重要
- ナッジの節度ある利用を促す、倫理の整備・意識の向上
- スラッジ、時間税(イギリス、150億円)
- 良かれと思ったことがスラッジになっていることも

○連携

- ナッジとマーケティングのコミュニティの近接化
- 自治体と民間企業が共同で広報にナッジを取り入れる
- 地域の間接支援となるような伴走支援体制を強化
- 企業から

○研究

- ナッジの受け手側にナッジの受容を阻害する要因や心理的障壁があるのか、どのタイプのナッジのときにあるのかについての実態把握

○行政の体制整備

- 自治体にナッジを実践して効果を体感してもらう
- 科学的知見を実務にどう活用するか
- 人材の流動性が低い中で研究について理解できる実務家と実務について理解できる研究者を増やしていく
- 専門職のような人材を行政で抱えていく
- 「なぜこの問題にナッジを活用するのか」について考え、問い直す意識を高める
- アカデミアと行政をいかに繋ぐのか
- 行政側が科学やデータを扱うことに対するリテラシーをどう向上させていくのか、専門家とどのように繋がりを持っていくか
- ナッジに関して教育を全国的に展開
- 行政の中において変革を起こして構造を構築するチェンジエージェントとなる人材をどう発掘するか、送り込むか、また、それらの人材がナレッジを共有しながらどう呼応して動くか
- 自治体ナッジ・ユニット(公式・有志併せて22)
- ナッジ、EBPMもが浸透してきている
- 地域毎にテラーメイドで(通知文等)
- 予算面(事前の調査・調整、ナッジのデザイン)
- 取り組む職員に対する行政のサポートのあり方(評価、公式活動としての認定)
- 専門人材の内製化と外部調達
- 紙ベースの取組・結果のデジタルデータ化
- 行政は長期効果を分析しやすい(通常業務で毎年ルーチンでしている統計調査等)

○不完全なエビデンスに基づく政策立案(汚いデータ、RCTができないとき)

- 「汚いデータ」、すなわち適切にコントロールされていない観察データを使った弱いエビデンスを用いて政策に反映
- 現在信頼性の高いエビデンスを蓄積できていると考えているが、事業の評価という側面から考えると非常に高コスト
- 現場で得られた知見は完全なものでもなくとも、意思決定において何らかの有用な情報になり得ることがある。それをどのように発信するか、エビデンスの質には濃淡がある
- 不完全なエビデンスからどのように意思決定をしていくのか
- 環境問題と予防原則

○国際的な潮流を踏まえたナッジの実践

- 認知バイアスを前提とした政策や消費者政策
- 認知バイアスの発生や感情的な行動を防ぐようなサービスの設計
- 認知バイアスに気付かせ、冷静にさせる仕組み
- スラッジの禁止
- スラッジに対する対策やナッジを活用したより良いサービスの提供について研究

○公共政策と政策ツール

- なんでもかんでもナッジ×。ナッジは政策ツールの1つ
- 課題の本質を見極めるべき
- 制度の改正が必要なものは制度対応
- 選別するガイドラインが必要

○その他(BESTの役割等)

- ナッジ周辺の新しいコンセプトを提供(これまではboostなど)
- 議論が研究に偏っている
- コンサルタントの意見も吸い上げられるように
- いかに良い意識決定への支援ができるか
- テーマ毎にサブグループを設けても良いのでは
- AI活用について
- 社会で活用できるアプリケーションは作られてきているが、知られていない。デジタル活用の流れを(BI-Tech: 行動科学の知見Behavioral Insights X 先端技術Technology)
- 民間企業も関心ある(無関心層をどう動かすか、長期効果は、行動変容の持続ができるか)